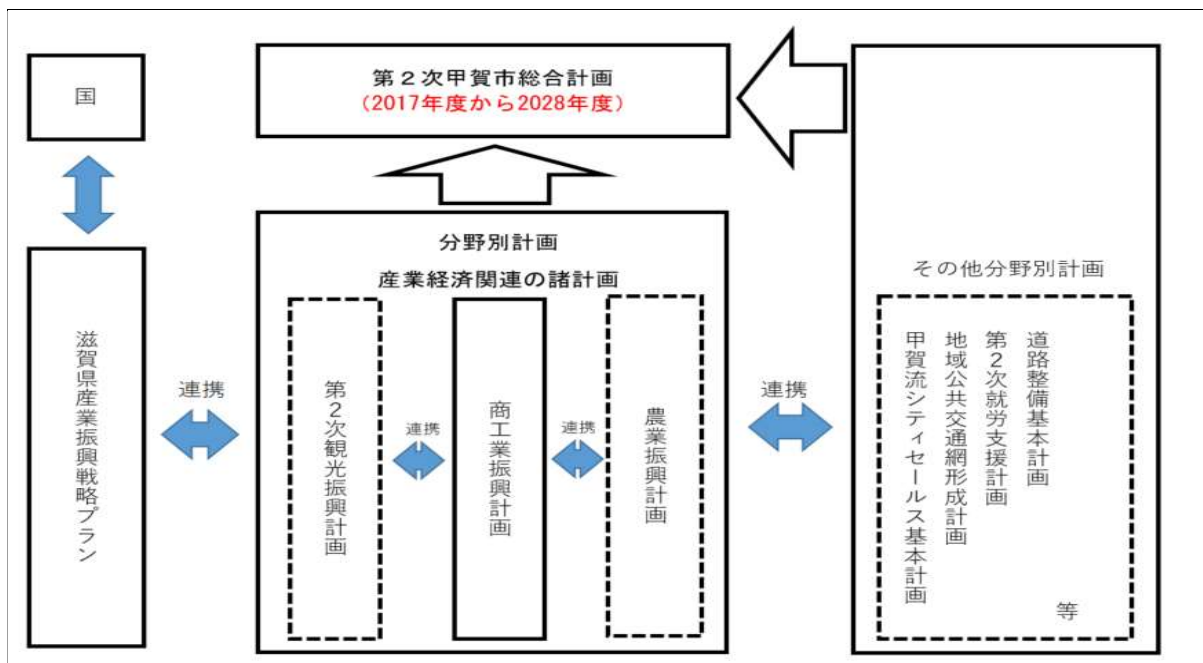
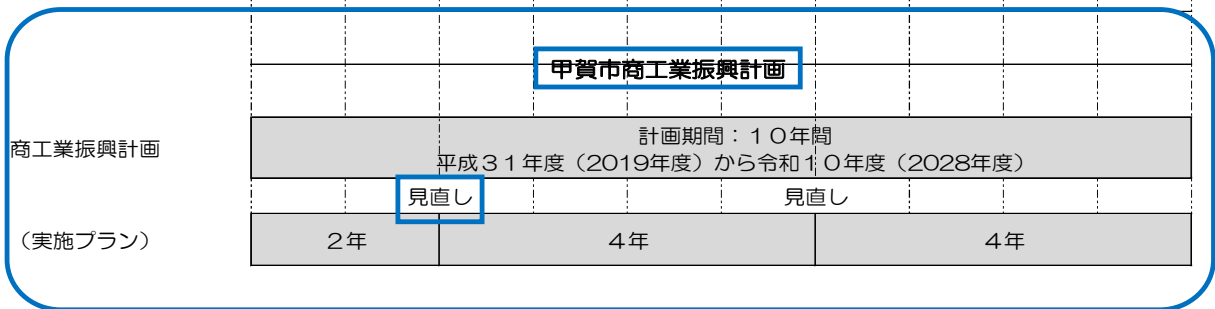


甲賀市商工業振興計画見直しにおける今後のスケジュール及び方向性について

1. 甲賀市総合計画との関連性

甲賀市商工業振興計画については、平成31年（2019年）3月に策定をしてから、2年が経過しております。

本来ですと、計画は4年を期として、見直しを行います。甲賀市商工業振興計画の上位計画である甲賀市総合計画が2017年度から2028年度の12年を計画期間としていることから、甲賀市商工業振興計画も合わせるため、2年での見直しとなります。



2. 見直しの方向性

第2次甲賀市総合計画（第2期基本計画）で示されている方針・目標を踏まえ、見直しを進めます。

4. チャレンジ目標

アフターコロナにおける「新しい豊かさ」によるまちづくり

社会の成熟化が進むなか、これまでのモノやお金に依存する価値観はゆるやかに薄れ、多様化しつつあります。そのようななか、新型コロナウイルス感染症による世界的な危機は、社会・経済情勢に大きなインパクトを与え、「いつもの暮らし」の大切さを再認識することとなりました。

そして、少子高齢化、多国籍化、働き方の多様化が進むなか、社会を一面的に捉えたこれまでの「仕組み」では、行政の根幹的な責務である「市民の生活を安定的に継続させながら、生命・財産（経済活動）を守ること」の難しさも実感しました。

これからの4年間は、アフターコロナにおける「新しい価値観」「新しい生き方」「新しい家族のあり方」を包摂した「新しい豊かさ」を、市民、地域コミュニティ、市民活動団体、民間事業者の皆さんとともに追求します。

新しい「いつもの暮らし」への挑戦です。オール甲賀で一緒に取り組みましょう。

「新しい豊かさ」を追求する視点

1. 自然と調和のとれたセンスのある景観づくり
2. 「自分らしく」誇りと逞しさ養う次世代教育
3. アフターコロナを見据えた医療体制の充実
4. 誰にも居場所がある支え合いの福祉
5. スマートシティ、スマート自治体による利便性の向上
6. 時代を超えた歴史、文化、芸術に包まれた豊かな暮らし
7. ローカル経済による支え合いと安全な消費づくり
8. 都市部とのアクセスメリットを活かした便利なゆっくり暮らし
9. 若者層が挑戦できるまちづくり
10. 誰もが移動しやすい市内交通ネットワーク環境

※「新しい豊かさ」アイコン



- ①自然との調和、②景観、③シビックプライド、④次世代教育、⑤医療の充実、
⑥みんなの居場所、⑦支え合いの福祉、⑧歴史・文化・芸術のある暮らし、
⑨スマートシティ、⑩スマート自治体、⑪ローカル経済、⑫地産地消、
⑬便利な田舎暮らし、⑭若者の挑戦、⑮交通ネットワーク、⑯民間活力、
⑰帰郷（U1）ターン、⑱環境

これまで進めてきた20分野の取り組みに

「新しい豊かさ」のエッセンス（切り口）を組み込みます。

新しい豊かさ

×

20分野65施策

3. 見直しにおけるキーワード・・・第1回甲賀市商工業振興計画審議会より
第1回甲賀市商工業振興計画審議会で意見等をいただいた下記のキーワードを甲賀市商工業振興計画に落とし込み見直しを行います。

- ・新型コロナウイルス感染症
- ・DX※1
- ・カーボンニュートラル※2
- ・脱炭素社会
- ・6次産業化
- ・アフターコロナ
- ・教育ファーム※3
- ・キャリア教育
- ・甲賀市内企業の魅力の発信
- ・甲賀ビジネスサポートセンター

- ※1 デジタルトランスフォーメーションの略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること
- ※2 何かを生産したり、一連の人為的活動を行った際に、排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量であるという概念。温室効果ガスの排出を全体としてゼロとする。
- ※3 生産者の指導を受けながら、作物を育てるところから食べるところまで一貫した「本物体験」の機会を提供する取り組み。

4. 今後の見直しスケジュール

第2回甲賀市商工業振興計画審議会	甲賀市商工業振興計画 第1章 計画の策定にあたって 第2章 商工業の現状と課題 第3章 計画の基本的な考え方 第4章 基本方針と基本目標
第3回甲賀市商工業振興計画審議会	甲賀市商工業振興計画 第5章 実施プラン、重点プロジェクト
庁内照会	甲賀市商工業振興計画
第4回甲賀市商工業振興計画審議会	甲賀市商工業振興計画全体確認、答申
パブリック・コメント	甲賀市商工業振興計画
第5回甲賀市商工業振興計画審議会	策定報告